

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02272

研究課題名（和文）パーミヤン渓谷出土写本を中心とする新出仏教写本の研究

研究課題名（英文）Study of Buddhist Manuscripts from Bamiyan, Afghanistan

研究代表者

松田 和信（Matsuda, Kazunobu）

佛教大学・仏教学部・教授

研究者番号：90268128

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アフガニスタンのパーミヤン渓谷から近年発見されたインド語仏教写本およびそれと関連する写本類、即ち、1) パーミヤン渓谷より発見されたサンスクリット語とガンダーラ語による仏教写本断簡類、2) パキスタンのギルギットより発見された説一切有部所伝の『長阿含経』のサンスクリット語写本、3) 中国チベット自治区・ラサのポタラ宮に保存されていた『菩薩藏経』のサンスクリット語写本に対する解読研究である。研究期間中に、海外研究協力者の支援を得て、これらの写本の大多数の解読を終え、パーミヤン発見写本については、『スコイエン・コレクションの仏教写本（英文）』の第5巻として2024年に出版される予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフガニスタンとパキスタンにまたがり、パーミヤンを含む広い意味でのガンダーラ地域からは、多数の仏教美術品は発見されているが、古代の仏教思想そのものを伝える文字資料は、これまでほとんど発見されていなかった。しかし、1990年代の後半から、仏教に関する文字資料が一万点以上もパーミヤンやギルギットから発見されたことには非常に大きな意味がある。本研究の終了後、これらの新たな写本断簡類のすべてが出版されて全貌が明らかとなり、世界の研究者がその研究成果を利用できるようになれば、今後の仏教研究のみならず、インドの思想と文化、あるいはインド古典研究に多大な貢献をもたらすことになる。

研究成果の概要（英文）：This study focused on Indian Buddhist manuscripts and related manuscripts recently discovered in the Bamiyan Valley, Afghanistan. Specifically, it examined 1) Buddhist manuscript fragments in Sanskrit and Gandhari found in the Bamiyan Valley, and 2) the Sanskrit Dirgha-agama manuscript of Sarvastivadin discovered in Gilgit, Pakistan. Additionally, it explored 3) the Sanskrit manuscript of the Bodhisattvavipitaka-sutra preserved at the Potala Palace in Lhasa, Tibet Autonomous Region, China. Throughout the research period, with the assistance of overseas research collaborators, the majority of these manuscripts have been deciphered. The fifth volume of the "Buddhist Manuscripts of the Schoyen Collection," which includes the Bamiyan manuscript fragments, will be published in 2024.

研究分野：仏教学

キーワード：仏教学 サンスクリット語 ガンダーラ語 写本 パーミヤン ギルギット 長阿含経 菩薩藏経

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

旧ソビエトのアフガニスタン介入に始まり、タリバーンの台頭、さらに米同時多発テロからアフガン戦争を経て、現在のタリバーン復活に至るアフガニスタンの状況は、パキスタンの国境地域を含む現地の荒廃と引き換えに、世界の古写本マーケットに膨大な量のアフガニスタンおよびパキスタン出土仏教写本の流入という皮肉な結果をもたらした。古写本マーケットに現れた仏教写本の大部分は、欧米および我が国の研究機関あるいは蒐集家に引き取られていった。そのような状況下、1990年代の中頃、アフガニスタンのバーミヤン渓谷東北部に位置するザルガラ地区の崩壊した石窟から、インド語で書かれた仏教写本の断簡類が大量に発見された。それらの写本類は、ノルウェーのスコイエン・コレクション、米国バージニア州の匿名コレクション、我が国の故平山郁夫画伯のコレクション、浄土真宗僧侶の故林寺巖州師のコレクション、ドイツの匿名コレクションらに分割して引き取られた。

発見された仏教写本の断簡類は、小さな破片類も入れると全体で一万点以上にのぼるが、仏教研究に寄与すると思われる、数行以上の文章をとどめる断簡だけでも2000点を数える。それらは、カローシュティー文字、草書体ギリシャ文字、クシャーナ朝のブラーフミー文字、グプタ朝のブラーフミー文字、ギルギット・バーミヤン1型および2型文字といった、2世紀から8世紀にかけてのインド系、あるいはギリシャ系文字で貝葉、樺皮、獣皮に書写されたガンダーラ語とサンスクリット語といった古代インド語、さらに一部はバクトリア語で書かれた仏教文献であった。その中には、現在までに正体が判明し、すでに解読出版されているものだけでも、バクトリア語で獣皮に書かれた仏教祈祷書(5世紀)、カローシュティー文字によるガンダーラ語の『大般涅槃経』(2世紀)、同じくカローシュティー文字によるガンダーラ語の大乗経典『賢劫経』『菩薩藏経』『集一切福德三昧経』(2～3世紀)、クシャーナ文字によるサンスクリット語の『八千頌般若経』(3世紀)、グプタ文字によるサンスクリット語の『勝鬘経』『諸法無行経』『阿闍世王経』『菩薩藏経』(4～5世紀)、ギルギット・バーミヤン第1型文字による『無量寿経』(6世紀)、同じくギルギット・バーミヤン第1型文字による因縁物語付きの大衆部教団所属の『法句経』や『摩訶僧祇律』(6世紀)などの、驚くべき内容と年代の仏教文献が数多く含まれている。

またバーミヤンにおける写本発見とほぼ同時期にパキスタンのギルギットからも、説一切有部教団がサンスクリット語で伝承した『長阿含経(ディールガ・アーガマ)』の巨大写本を含む、8世紀に書写されたとみなされる多数の樺皮写本類が発見され、それらも分割されて複数のコレクションに引き取られた。

さらに近年、これまで殆ど情報の伝えられて来なかった中国チベット自治区に保存されているサンスクリット語写本類の保存状況も、中国と海外の研究者の交流を通して明らかになってきた。その中には、バーミヤン渓谷からサンスクリット語とガンダーラ語の写本断簡が発見された宝積部の長編大乗経典『菩薩藏経』の完全なサンスクリット語貝葉写本の存在も確認され、ラサのポタラ宮で撮影された写本写真がすでに本研究の代表者と海外の共同研究者達に届けられている。

### 2. 研究の目的

新発見の貴重な写本類が仏教研究にもたらす影響は計りしれない。古代に仏教が栄えたバーミヤンやギルギットから生の同時代資料が発見されたのである。これら写本類に対する解読研

究を速やかに行なって学界に公表することは、日本および世界の仏教研究者から強く求められているところである。本研究の代表者は、新発見の写本断簡類について、所蔵する各国のコレクションから資料の提供と研究の委託を受け、1997年より、ノルウェー科学アカデミー、および科学研究費の資金援助を仰ぎながら、ヨーロッパと米国の研究者と共同で研究と出版を行っている。特に、バーミヤン出土写本を中心として蒐集するノルウェーのスコイエン・コレクションについては、所有者のマーティン・スコイエンと契約を交わし、本研究の代表者およびオスロ大学のイェンス・ブロールヴィック教授を含む5名のグループによって国際共同研究が行われ、すでにその研究成果が4巻に分けてノルウェーのオスロより出版されている（『スコイエン・コレクションの仏教写本（英文）』第1巻、2000年、第2巻、2002年、第3巻、2007年、第4巻2016年）。しかしこれまでの出版に収められた写本断簡類の総計は、断簡全体の半分程度にすぎない。いまだ多くの貴重な写本断簡類が研究を待っている状態である。しかもその中には、漢訳やチベット語訳等の平行資料の存しない、未知の仏教教団の経典や論典の写本断簡類が数多く含まれている。さらにチベット・ラサのポタラ宮に保存されている『菩薩藏経』の写本についても、同じ経典のアフガニスタン写本を発見した研究代表者らに写真が提供され、現在中国側と共同研究を行っているオーストリア科学アカデミーの研究プロジェクトの一環として、スコイエン・コレクションの共同研究者と共に解読研究を依頼されている。従って、本研究は、5年間の予定で、ノルウェーのスコイエン・コレクションと、新発見のアフガニスタンおよび『長阿含経（ディールガ・アーガマ）』を中心とするギルギット出土写本類、さらにポタラ宮の『菩薩藏経』写本について、海外の研究協力者とともに継続的に解読を行い、未解読のまま残されている写本類について解読を終え、それから回収されるインド語の原典テキストおよび翻訳の出版を行うことを目的とした。

### 3. 研究の方法

ノルウェーのスコイエン・コレクションに含まれるアフガニスタン出土写本断簡類については、海外の研究協力者と連絡を取りながら分担して写本解読を行うと共に、研究協力者が所属する研究機関に定期的集まって研究会を開催して共同研究を行う方法を取った。研究対象となる写本類については、すでに研究代表者および海外研究協力者は写真とデジタル・データですべて入手し、すでにその一部を4巻の報告書としてオスロより出版しているが、研究会では、残された膨大な量の写本断簡類について、5年間の研究期間の間、各研究者が事前に各自解読を行った成果を持ち寄り、最終的な解読と英訳作業を行った。さらに、スコイエン・コレクション以外で未出版のまま残されている重要資料であるギルギットから発見されたと伝えられるサンスクリット語による『長阿含経』写本についても、海外の研究協力者とともに出版のための解読研究を行った。また研究代表者自身は、関連する資料を所蔵する海外のコレクションを現地調査して、研究代表者が所持している写真等では判読できない箇所を確認作業を行った。『菩薩藏経』写本については海外の研究協力者と章毎に分担して解読を行い、ローマ字転写テキストを作成した。

### 4. 研究成果

5年間の研究期間中に海外の研究協力者と共に解読を終えた断簡類について、新たな研究成果報告書（第5巻）が2024年にオスロより出版される予定である。これによって、既刊分と併せて、1万点に上る断簡類全体の約6割が出版されることになる。第6巻に含まれる写本断簡類は以下の通りである。なお本書はノルウェーのヘルメス出版より刊行さ

れる。

1. *Daśottara-sūtra*
2. Mahāsāṃghika's *Dharmapada* with Nidāna stories
3. *Bhaiṣajyaguru-sūtra*
4. *Viśeṣavatīdhāraṇī*
5. *Bodhisatvapiṭaka-sūtra*
6. *Sāgaramatipariṣcchā-sūtra*
7. *Ajātaśatrukaukṛtyavinodanā-sūtra*
8. *Ugrapariṣcchā-sūtra* (Kharoṣṭhī)
9. *Vīradattapariṣcchā-sūtra* (Kharoṣṭhī)
10. *Dāna-sūtra*
11. Leather fragment on *Ātmadvīpa and Dharmadvīpa*
12. *Prañidhāna* text
13. *Lalitavistara*
14. *Satyaka-sūtra* (Kharoṣṭhī)
15. *Udrāyana* story fragment
16. Mātṛceṭa's *Varṇārhavarṇastotra* and *Prasādapratibhodbhava*
17. *Buddhacarita* by Aśvaghoṣa
18. *Sūtrālaṃkāra* by Aśvaghoṣa
19. *Mahāyānasūtrālaṃkārabhāṣya* by Vasubandhu
20. An *Amarakośa*-related lexicon

さらに、上記写本断簡類とは別にギルギットから発見された『長阿含経』の写本に含まれる全47経典も解説を終え、サンスクリット語校訂テキストの作成を行ったことを研究成果として報告しておきたい。この『長阿含経』写本については別途出版計画を立てている。また、『菩薩藏経』写本については、オーストリアのウィーン科学アカデミー出版局から第1巻として写本のローマ字転写テキストが2024年に出版される予定である。出版のための原稿はすでにウィーンに提出し、現在は査読中となっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松田 和信	4. 巻 59-2
2. 論文標題 パーミヤーン出土仏教写本研究の二十年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 146, 170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 松田 和信
2. 発表標題 On Leather Manuscript Fragments in the Schoyen Collection, Norway
3. 学会等名 The 17th World Sanskriti Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田 和信
2. 発表標題 atmadvipa dharmadvipa を巡る獣皮断簡：スコイエン写本から
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第69回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazunobu Matsuda
2. 発表標題 Recent Finds of Buddhist Manuscripts from Bamiya, Gandhara and Gilgit
3. 学会等名 AAS-in-Asia（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazunobu Matsuda, Choi Jinkyong
2. 発表標題 The Source and Structure of the Tridandisutra
3. 学会等名 18th Congress of International Association of Buddhist Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazunobu Matsuda
2. 発表標題 Recent Finds of Buddhist Sanskrit Manuscripts from Bamiyan and Gilgit
3. 学会等名 2017 Chong Sheng Forum (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Jens-Uwe Hartmann, Kazunobu Matsuda, Paul Harrison 他28名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Harrassowitz, Germany	5. 総ページ数 494
3. 書名 Reading Slowly - A Festschrift for Jens E. Braarvig	

1. 著者名 松田和信, 辛嶋静志 他13名	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋哲学研究所	5. 総ページ数 495
3. 書名 シルクロード研究論集第1巻「仏教東漸の道・インド・中央アジア篇」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------